

大学院履修要項

武蔵野美術大学 大学院 造形研究科
2021

修士課程／博士後期課程



目次

大学院造形研究科	3
教育理念／歴史	4
大学院の教育目標／カリキュラム・ポリシー／ディプロマ・ポリシー	5
大学院の沿革	6
大学院の構成	7
学事予定	8
教育課程および履修方法	9
武蔵野美術大学試験実施要領	14
個人情報の取り扱いについて	15
修士課程	17
造形研究科 修士課程 単位表	18
授業科目・担当教員一覧	20
美術専攻 日本画コース	22
油絵コース	24
版画コース	26
彫刻コース	28
美学美術史コース	30
芸術文化政策コース	32
デザイン専攻 視覚伝達デザインコース	34
工芸工業デザインコース	36
空間演出デザインコース	38
建築コース	40
基礎デザイン学コース	43
デザイン情報学コース	45
博士後期課程	47
構成（研究領域）	48
授業科目および単位数	49

教育理念

武蔵野美術大学の教育理念は、昭和4（1929）年10月30日、本学の前身である帝国美術学校の創立に由来するものです。帝国美術学校の創立に寄与し、後にその経営と教育の中心となった金原省吾（開校時学監）の手記には「教養を有する美術家養成」と記されています。また、創立時の中心人物のひとり名取堯（開校時主事）の『武蔵野美術』（創立三〇周年記念特集）に寄せられた30年の回顧には、「人間が人間になる道は厳しい鍛錬、たゆまざる精進の中にあって、放任の中にはない、その框（わく）を固定させず、しかも、放縦に任せず、真に人間的自由に達するような美術教育への願い」であると語られており、美術を技術的専門性だけではなく、総合的な人間形成をもって成るものと考えたのです。

このように、まさに人間的自由に達するために美術・デザインを追求することこそが、本学の教育理念であると言うことができ、国内美術大学では最大規模の造形教育の大学となった現在も、この教育理念を継承し堅持しています。

武蔵野美術大学大学院（造形研究科修士課程）は、本学の建学の精神に基づいて、造形学部の教育とのつながりに配慮しつつ、そこで培った能力のさらなる発展を期するものです。大学院規則第1条に記すとおり、造形学部における一般的・専門的教育の基礎のうえに、美術・デザインに関する専門の技能、理論および応用を教授研究し、その深奥を究めた人材を養成し、もって文化の創造、発展に寄与することを目的としています。

さらに博士後期課程では、学部及び修士課程の総合的な教育・研究の上に造形芸術領域において、社会的に突出した人材の養成、輩出を目的とします。他に比較して優れている傑出した人材というよりは、高く鋭く突き出ている突出した人材の養成をめざしたいと考えています。より具体的には、造形芸術の分野において、確実な基礎の上に立った先鋭的な仕事をする人材、専門分野において先駆的・前衛的な仕事をする人材、歴史的成果を飛躍的に深化させる仕事をする人材、社会的な影響を及ぼすような仕事をする人材などを養成、輩出する高度な教育研究機関であり、また、際だった専門技術と知識の社会への提供と還元をはたす教育研究機関を目指します。これらのことが、本大学院の博士後期課程設置の理念となります。

歴 史

武蔵野美術大学大学院の発足に先立って、昭和37（1962）年に設置された造形学部の最初の卒業者のために、昭和41（1966）年、造形学部造形専攻科を進学先として開設しました。当時造形専攻科は、日本画専攻、油絵専攻、彫刻専攻、商業デザイン専攻、工芸工業デザイン専攻、芸能デザイン専攻の6専攻で構成されましたが、公式の称号・学位はありませんでした。こうしたなかで大学院設置が計画され、昭和47（1972）年11月に文部省に大学院設置認可申請を行い、翌年3月に認可され、昭和48（1973）年4月に武蔵野美術大学大学院造形研究科（修士課程・二年制）が設置されました。美術専攻には日本画コース、油絵コース、彫刻コース、デザイン専攻には商業デザインコース、工芸工業デザインコース、芸能デザインコース、建築コース、基礎デザインコースが置かれました。大学院修士課程として修了者には「芸術学修士」の称号を授与することになりました。その後、昭和55（1980）年には商業デザインコースが視覚伝達デザインコースへ、昭和60（1985）年には芸能デザインコースが空間演出デザインコースへ改称しました。また、美術専攻においては、昭和62（1987）年に版画コース、昭和63（1988）年に造形学コースを開設しています。

平成2（1990）年開設の映像学科の最初の卒業者に連動し、平成6（1994）年にはデザイン専攻に映像コース、平成11（1999）年開設の芸術文化学科、デザイン情報学科の最初の卒業者に連動して、平成15（2003）年には美術専攻に芸術文化政策コース、デザイン専攻にデザイン情報学コースを開設しました。平成18（2006）年には、デザイン専攻に写真コースを開設しています。また、平成20（2008）年には、美術専攻の造形学コースを、造形理論・美術史コースへ名称変更しました。

こうして修士課程の教育活動が充実していくなかで、造形芸術の分野においてもより一層高度の専門性を有する人材の養成への期待が高まり、平成16（2004）年に大学院造形研究科博士後期課程（博士課程・三年制）を開設しました。

また、平成31（2019）年の造形構想学部の新設に伴い、造形構想研究科・造形構想研究専攻（修士課程）が開設し、新たにクリエイティブリーダーシップコースと、造形研究科・デザイン専攻より移設された映像・写真コースが置かれました。さらに、令和3（2021）年には、造形構想研究科・造形構想専攻（博士後期課程）を開設するに至りました。

大学院の教育目標

造形研究科 修士課程

武蔵野美術大学大学院造形研究科は、その教育理念に基づき、次の教育目標を掲げる。

1. 独自の研究テーマを確立し、表現者・研究者として活動していくために必要な論理的思考能力を培うこと
2. 現代の社会状況を見据え、制作や研究を通じて社会に発信できる能力を培うこと
3. 世界的視野に立ち、専門家として自立して創作・研究活動を行う人材を育成すること

造形研究科 博士後期課程

近年、美術、デザイン、建築、映像等の造形芸術における表現領域においてはそれぞれ専門性が進化する一方で、多様化、横断化、複合化の方向に向かっている状況がある。このような状況においては、関連する学術研究の著しい進展や社会の変化に対応できる幅の広い視野と総合的な判断力に基づいて個々の領域における専門性を深めることができる人材が求められる。

造形芸術専攻（博士後期課程）は、このような時代の変化や社会的要請を十分に踏まえて、高い専門的技能と広い視野、深い知識を有する造形芸術における（1）高度の専門的職業人、（2）研究者、（3）アーティスト、（4）教育者としての活躍が期待される人材の養成を目標とする。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

造形研究科 修士課程

- ・広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うことを目的として、カリキュラムを編成する。
- ・各専攻各コースとも共通して、作品制作や理論研究を裏付ける理論、技能の習得を通じて、論理的思考能力を養うとともに、自身の研究テーマを深化させて表現者・研究者としての自立をめざす。
- ・具体的な方針は、各専攻各コースのカリキュラム・ポリシーによる。

造形研究科 博士後期課程

- ・造形芸術に関する高度な創造、表現の技術と理論を教授研究し、自立して創作、研究活動をおこなうのに必要な高度の能力及び豊かな学識、さらには造形芸術における研究指導能力を養うことを目的として、カリキュラムを編成する。
- ・「造形芸術特論」において、博士後期課程における研究を遂行するために、造形芸術をめぐる多様な研究事例をもとに、研究課題の設定や先行研究の調査など研究計画について指導する。それと並行して、造形芸術専攻の三研究領域に対応する「作品制作研究Ⅰ・Ⅱ」「環境形成研究Ⅰ・Ⅱ」「美術理論研究Ⅰ・Ⅱ」において、自らの制作活動や研究活動を専門の教員の指導の下に深め、展開していく。「総合研究Ⅰ・Ⅱ」では、自身の研究成果についてアカデミックな視点から総合的に指導を受けながら、理論の構築を行い、最終目標として博士論文の完成を目指す。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

造形研究科 修士課程

- ・修士課程に2年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ修士作品または修士論文の審査および最終試験に合格することが学位授与の要件である。
- ・具体的な学位授与の方針は、各コースのディプロマ・ポリシーによる。

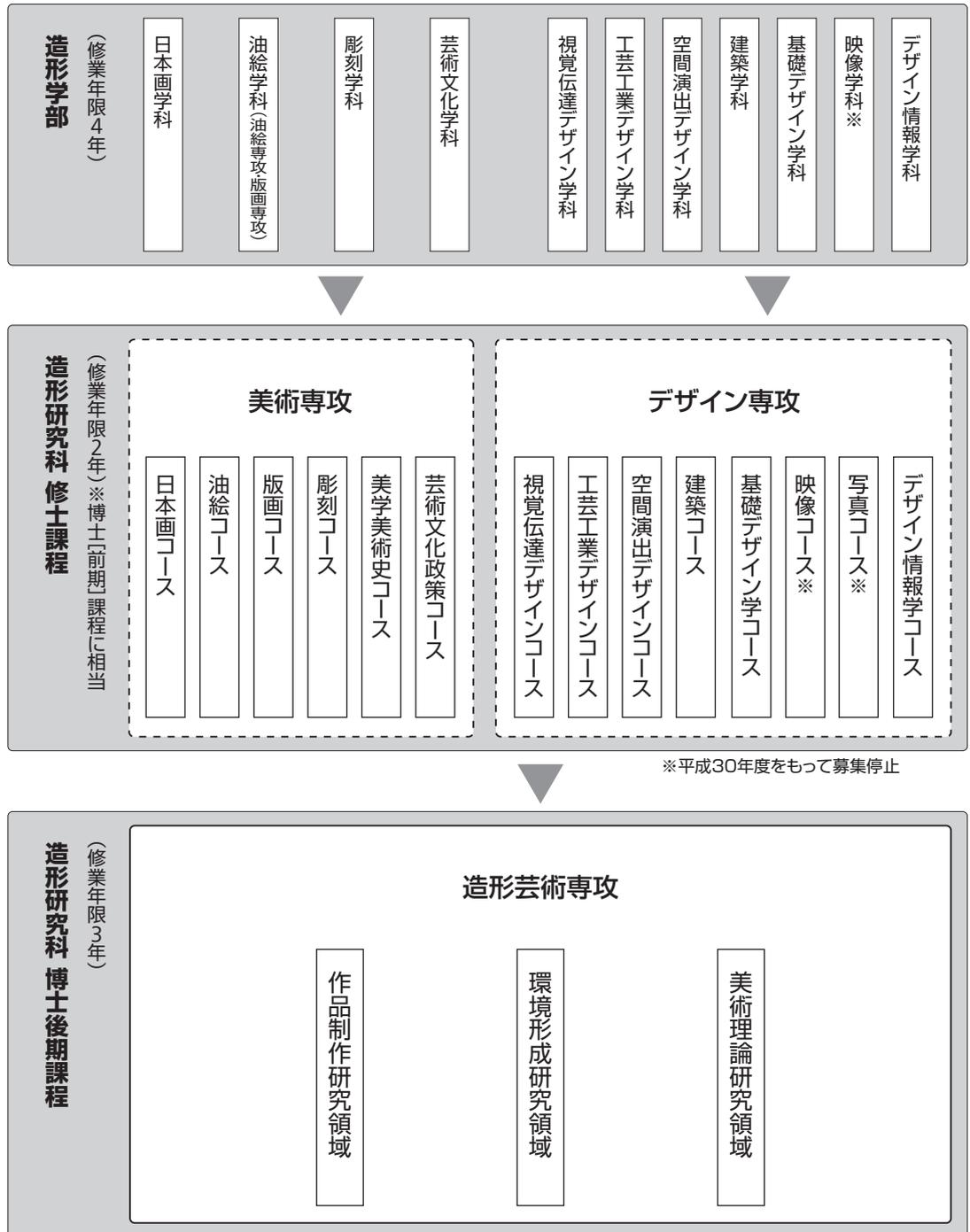
造形研究科 博士後期課程

- ・博士後期課程に3年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ所定の年限内に博士論文の審査及び最終試験に合格することが学位授与の要件である。
- ・上記の要件に加え、当該研究領域において独創性がありその領域の水準の引き上げに資する可能性があるものとして博士論文が認定された場合に博士の学位を授与する。

大学院の沿革

- 1962（昭和37）年 武蔵野美術大学設置
- 1966（昭和41）年 造形学部造形専攻科（一年制）開設（1973年廃止）
- 1972（昭和47）年 大学院設置認可申請（翌年3月認可）
- 1973（昭和48）年 大学院造形研究科（修士課程・二年制）設置し、同美術専攻に日本画コース、油絵コース、彫刻コース、同デザイン専攻に商業デザインコース、工芸工業デザインコース、芸能デザインコース、建築コース、基礎デザインコースを開設
- 1980（昭和55）年 大学院造形研究科デザイン専攻商業デザインコースを視覚伝達デザインコースと改称
- 1985（昭和60）年 大学院造形研究科デザイン専攻芸能デザインコースを空間演出デザインコースと改称
- 1987（昭和62）年 大学院造形研究科美術専攻に版画コースを開設
- 1988（昭和63）年 大学院造形研究科美術専攻に造形学コースを開設
- 1991（平成3）年 大学院規則と学位規則を改正、修士課程修了者の学位を「芸術学修士」から「修士（造形）」とする
- 1994（平成6）年 大学院造形研究科デザイン専攻に映像コースを開設
- 1996（平成8）年 大学院造形研究科デザイン専攻基礎デザインコースが、基礎デザイン学コースと改称
- 2003（平成15）年 大学院造形研究科美術専攻に芸術文化政策コース、デザイン専攻にデザイン情報学コースを開設
- 2004（平成16）年 大学院造形研究科博士後期課程（博士課程・三年制）を設置し、造形芸術専攻に作品制作研究領域、環境形成研究領域、美術理論研究領域を開設
- 2005（平成17）年 博士後期課程課程長に滝沢具幸が就任
- 2006（平成18）年 大学院造形研究科デザイン専攻に写真コースを開設
- 2008（平成20）年 大学院造形研究科美術専攻造形学コースが、造形理論・美術史コースと改称
- 2009（平成21）年 武蔵野美術大学80周年記念事業（世界美術大学学長サミット等）
- 2011（平成23）年 博士後期課程課程長に伊藤誠が就任
- 2015（平成27）年 博士後期課程課程長に富松保文が就任
- 2016（平成28）年 大学院博士後期課程は博士後期課程運営委員会による運営体制が確立してきたため、博士後期課程課程長を廃止
- 2019（平成31）年 大学院造形構想研究科（修士課程・二年制）設置し、同造形構想専攻にクリエイティブリーダーシップコース、映像・写真コースを開設
大学院造形構想研究科（修士課程・二年制）造形構想専攻を開設（クリエイティブリーダーシップコースを設置し、造形研究科デザイン専攻より映像・写真コースを移設）
- 2020（令和2）年 大学院造形研究科美術専攻造形理論・美術史コースが、美学美術史コースと改称

大学院の構成



2021年度 学事予定

※「追加」期間は、今後の情勢次第によって、実技・演習系の授業が学事予定通りに実施できなかった場合の【予備】期間として確保しています。
 今後も学事予定が変更になる可能性があります。その際は大学 HP や LiveCampus でお知らせします。

年月	日	授業週	期	市ヶ谷 キャンパス	学事予定	備考		
2021年	—							
4月	5 - 10				オリエンテーション週間、入学式4/5(月)、履修登録期間4/7(水)～4/19(月)			
	12 - 17	1	1	1	4/12 (月) 前期授業開始			
5月	19 - 24	2						
	26 - 1	3					4/29 (木) 昭和の日は授業日	
	3 - 8	4					5/3(月)憲法記念日、5/4(火)みどりの日、5/5(水)こどもの日は授業日	
6月	10 - 15	5			2	(4/12-6/5)		
	17 - 22	6					前期履修取消期間	
	24 - 29	7						
	31 - 5	8						
	7 - 12	9		教育実習			オープンキャンパス 6/12(土)・13(日)	
7月	14 - 19	10	3	2				
	21 - 26	11						
	28 - 3	12						
	5 - 10	13				7/10(土) 前期授業終了		
8月	12 - 17	14	追加	(6/7-7/31)	前期補講・講義科目定期試験週間 7/12(月)～17(土)			
	19 - 24						7/22(木)海の日、7/23(金)スポーツの日	
	26 - 31							
	2 - 7					夏季休業 7/19 (月)～9/4 (土)	8/8 (日) 山の日	
	9 - 14						オープンキャンパス 8/14(土)・15(日)	
9月	16 - 21		追加					
	23 - 28	15						
	30 - 4	16						
10月	6 - 11	17	4	3	9/6 (月) 後期授業開始、9/9 (木)・10 (金) 後期修正履修登録			
	13 - 18	18						
	20 - 25	19						
	27 - 2	20				9/20(月)敬老の日、9/23(木)秋分の日は授業日		
	4 - 9	21						
11月	11 - 16	22	5	(9/6-10/16)	後期履修取消期間			
	18 - 23	23						
	25 - 30					準備 10/25(月)～28(木)		
	1 - 6				芸術祭活動	祭典 10/29(金)～31(日)	10/30 (土) 創立記念日	
	8 - 13	24				整理 11/1(月)～3(水)	11/3 (水) 文化の日	
						休講 11/4(木)～6(土)		
12月	15 - 20	25	6	4				
	22 - 27	26						
	29 - 4	27				11/23(火)勤労感謝の日は授業日		
	6 - 11	28						
	13 - 18	29				12/18 (土) 後期授業終了		
	20 - 25	30				後期補講・講義科目定期試験週間 12/20 (月)～25 (土)		
2022年	27 - 1							
1月	3 - 8		追加		冬季休業 12/27 (月)～1/8 (土)	1/1 (土) 元旦		
	10 - 15					卒業・修了制作展 1/13 (木)～16 (日)	1/10(月)成人の日は、卒業制作・論文の提出・採点日	
	17 - 22							
2月	24 - 29							
	31 - 5							
	7 - 12					2/11 (金) 建国記念の日		
3月	14 - 19	31	追加					
	21 - 26	32				2/23 (水) 天皇誕生日		
	28 - 5	33						
	7 - 12	34						
	14 - 19					3/18 (金) 卒業式		
	21 - 26				3/21 (月) 春分の日			
	28 - 2							

教育課程および履修方法

●修了要件

[修士課程]

2年以上在学し、各コース別の必修科目 20 単位および各コース共通の科目から 10 単位以上、合計 30 単位以上を修得し、かつ修士作品または修士論文の審査および最終試験に合格することにより修了となります。

[博士後期課程]

3年以上在学し、1年次および2年次に配当された選択科目から 4 単位および各学年に配当された必修科目から 6 単位、合計 10 単位以上を修得し、かつ博士論文の審査および最終試験に合格することにより修了となります。

●修士作品または修士論文等の審査基準

1. 学位論文等の提出及び学位授与の申請

修士の学位を受けようとする者は、指導教員を通じて修士作品又は修士論文を提出します。

2. 学位論文等の提出及び学位授与の申請の要件

修士論文等は、修士課程に1年以上在学し、所定の授業科目について、2年次修了時まで30単位以上を修得する見込みの者でなければ、提出することができません。

3. 学位論文等の審査

修士論文を審査するため修士論文等ごとに審査委員会を設けます。

4. 審査委員会

修士論文等の審査にあたっては、提出された修士論文等の内容に応じた専門分野の指導教員及び研究科委員会において選出された関連分野の教員2名以上で審査委員会を組織します。

5. 課程修了及び授与資格の認定

研究科委員会は、修得単位並びに審査委員会からの学位論文等の審査及び最終試験の結果報告に基づき、課程修了の認定について審議のうえ、合格又は不合格を議決します。

●履修等

1. 履修登録

履修登録は別に配付される「学生用システム操作ガイド（履修登録マニュアル）」を熟読し、所定の期日に手続をする必要があります。

また、履修登録後にLiveCampusから出力した「履修登録確認票」で、自分が希望した科目が正しく登録されているかを必ず確認してください。

2. 単位認定

他の大学院において修得した単位は、修士課程および博士後期課程を通して10単位まで認定することがあります。ただし、本学の博士後期課程にのみ在籍する場合は最大4単位までの認定となります。

●修士課程における研究指導計画

1年次

- 4月 指導教員と協議の上、研究テーマの検討、確定
研究能力・手法の育成と習得
研究テーマに関する調査研究／関連領域に関する調査研究
中間報告会、プレゼンテーションの実施
修士論文研究テーマの検討

2年次

- 4月 指導教員と協議して修士論文研究テーマの設定
研究テーマに関する調査研究
主査・副査も参加する公開での研究進捗プレゼンテーションの実施等
- 1月 指導教員の許可を得て修士論文・作品提出／以後審査と最終試験
修了制作展、学外展示、公表
- 3月 学位認定

●授業

造形研究科の授業は、次のような原則で行われます。

1. 授業時間

講義科目	第1時限 8:50～10:20 第2時限 10:30～12:00 第3時限 13:20～14:50 第4時限 15:00～16:30 第5時限 16:40～18:10
演習・実技科目	第1・2時限 8:50～12:00 第3・4時限 13:20～16:30

2. 休講

講義科目の授業がやむをえず休講となる場合は、下記の方法で連絡しますので、必ず確認してください。

- ・電子掲示板（1号館第1講義室入口左）
- ・LiveCampus ポータルサイトの学内リンク「休講情報」

3. 欠席

病気その他やむを得ない理由で欠席する場合は、次の通り手続きしてください。

- ・1週間以内の欠席
口頭で、担当教員または所属研究室、開設研究室に申し出てください。
- ・1週間を超える欠席
口頭で担当教員または所属研究室、開設研究室に申し出た上で、「欠席の理由を証明する書類（医師の診断書、病院の領収書等）」を教務チームへ持参してください。窓口にて「欠席届（教務チームにて配付）」の記入が必要です。

4. 公欠

以下の場合は、公欠扱いとし、全体の授業回数に含めません。事前に教務チームへ申し出てください。

- ・裁判員に選任
- ・大学が認める学校感染症に罹患（本人または同居人が法定伝染病に罹るか、その疑いがあると診断された時は、直ちに保健室に連絡してください。医師より「治癒証明書（大学ホームページからダウンロードできます）」を受け、保健室に提出し、大学の承認を受けるまで登校することはできません。）

※冠婚葬祭は公欠扱いとはしません。

●気象警報に伴う休講、定期試験の延期

気象庁より、気象警報が発表された場合次の通りとします。（造形学部通信教育課程を除く）

なお、どの規定に該当しても、ホームページ、LiveCampus で確認するようにしてください。また、定期試験が延期等された場合は、後日、本学掲示板で試験日程を確認してください。

- ・対象となる気象警報（注意報を除く）
 - 【警報】「暴風」「暴風雪」「大雪警報」
 - 【特別警報】「大雨」「暴風」「暴風雪」「大雪」
- ・対象地域および気象警報発表時における授業の取り扱い
鷹の台キャンパスの場合：多摩北部
 - ・午前6時00分において発表されている時は、1時限及び2時限を休講等とする。
 - ・午前9時00分において発表されている時は、3時限、4時限及び5時限を休講等とする。
 - ・その他、午前9時00分より後に発表された場合は、学長の判断により決定する。

市ヶ谷キャンパスの場合：東京23区西部

- ・午前6時00分において発表されている時は、1時限及び2時限を休講等とする。
- ・午前9時00分において発表されている時は、3時限及び4時限を休講等とする。
- ・午後3時00分において発表されている時は、5時限、6時限及び7時限を休講等とする。
- ・その他、午後3時00分より後に発表された場合は、学長の判断により決定する。

●試験

1. 講義科目の定期試験

試験方法には、筆記試験とレポート試験とがあり、次のように行われます。

通年科目（前期と後期を通して開設されている科目）

原則として後期末に行われます。

半期開設科目（前期または後期に開設されている科目）

前期末または後期末に行われます。

2. 定期試験の受験資格

講義科目の定期試験を受けるためには、次の条件を満たすことが必要です。

①受験する科目の履修登録を行っていること（LiveCampusの履修登録確認表に科目が載っていること）。

②受験する授業科目の出欠状況が3分の2以上出席していること。

③授業科目毎に担当教員が定めた条件がある場合はその条件を満たしていること。

3. 試験実施科目の発表

試験のおよそ3週間前に掲示によって発表されます。試験方法、日程、試験実施教室、レポート課題等もあわせて発表されます。

4. 欠席および追試験

定期試験を病気その他やむを得ない理由で欠席した場合は、追試験が認められることがあります。追試験受付期間中に、次の書類を教務チームに提出して追試験受験料1科目500円を納め、受験の許可を受けた場合に限りです。詳細は、試験期間前に掲出する掲示にて確認してください。

- ・試験欠席届（教務チームにて配付）
- ・追試験受験願書（教務チームにて配付）
- ・欠席の理由を証明する書類（医師の診断書、病院の領収書等）

5. 修了年次生の再試験

修士課程の修了年次生（2年生）のうち、修了要件が満たせなかった者で、以下の基準に該当する場合は、再試験を受けることができます。

①各コース開設の実技実習科目の単位を規定どおりに修得していること。

②当該科目の単位を修得することによって修了の要件を満たすこと。

③未修得科目が2科目、8単位以内で、成績が「不可」であること。「未受験」や「対象外」は対象としない。

●成績評価

成績は素点100点を満点とし、60点以上を合格とする秀、優、良、可、不可の5段階で評価します。評価基準は次の通りです。

評価	素点	評価基準
秀	90点以上	当該科目の到達目標を大きく上回り、発展させている
優	80点以上90点未満	当該科目の到達目標を上回っている
良	70点以上80点未満	当該科目の到達目標を達成している
可	60点以上70点未満	当該科目の到達目標に最低限達している
不可	60点未満	当該科目の到達目標に達していない

●単位の授与

秀・優・良・可の評価が得られた科目については、合格とし、その科目について定められた単位が授与されます。単位を修得した科目を再履修することはできません。

試験を受験しなかった場合は「未受験」、出席が足りない場合は「対象外」となり、いずれも不合格となります。不合格科目は次年度以降に再履修することができます。

●成績の通知

1. 学生への通知（Web成績閲覧）

LiveCampusで、8月・3月に「成績通知書」の開示を実施します。

2. 保証人への通知

年1回（3月）、保証人住所宛てに郵送しますので、住所が変わった場合等は必ず教務チーム窓口に出して、手続きしてください。

●進級・修了

1. 進級

造形研究科では、その年度に修得した単位数にかかわらず上位学年に進級することになります。仮進級や留年制度はありません。

2. 修了

前述の「修了要件」を満たした者には「学位記」が与えられ、「修士（造形）」、または「博士（造形）」の学位が授与されます。

3. 修了延期（学籍継続）

①必修科目が未修得の場合：修延（必修）

留年の制度がないため、学籍上は「平常」となりますが、修了は1年間延期されます。ただし、在学期間の4年間に修得できない場合は退学となります。修了が延期となった場合は、未修得科目のみを再履修することになります。

②修了制作・論文が未修得の場合：修延（修了制作）

学籍上は「平常」となりますが、修了は延期されます。ただし、在学期間の4年間に修了できない場合は退学となります。延期の期間は原則的に1年間としますが、当該研究室の判断により半年間（9月）で修了する場合もあります。

③共通専門科目が未修得の場合：修延（共通）

学籍継続となり、学籍は「修了延期」となります。修了は半年または1年間延期され、その間に当該科目を修得しなくてはなりません。1年間を経過して修得しなかった場合は退学となります。

4. 在学年数

修士課程は2年以上4年以内、博士後期課程は3年以上6年以内に修了に必要な単位を修得しなければなりません。これを超える場合は退学となります。ただし、休学期間は在学年数に含まれません。

5. 単位取得退学

博士後期課程において、所定の単位を取得したが論文審査に合格していない場合、願い出（単位取得退学願）により単位取得退学となります。なお、単位取得退学後、5年以内に博士論文の審査および最終試験に合格することにより、「博士（造形）」の学位が授与されます。

●留学

本大学院の協定または認定する外国の大学院等へ留学を希望する場合は、学長に願い出て留学をすることができます。留学が許可された場合は、以下の適用が受けられます。

ただし、留学の許可を受けず、休学して留学した場合はこの限りではありません。

①留学期間のうち、1年を限度として本大学院規則に定められた修業年限または在学期間に算入することができる。

②留学先の大学院等で履修した授業科目の修得単位のうち、適当と認めた単位については、修士課程および博士後期課程を通じて10単位を上限として、本大学院における授業科目の履修により修得した単位として認定することがある。ただし、本大学院の博士後期課程にのみ在籍する場合は、最大4単位までの認定となる。

●休学

病気その他やむを得ない理由によって、2カ月以上出席できない場合は、学長に願い出て当該年度末まで休学することができます。あらかじめ保証人および研究室に相談した上で、所定の「休学願」、「理由書」等を教務チームに提出してください。この他に、学長が病気その他の理由で修学の継続が適当でないと判断したときは、願い出を待たないで休学を命ずることがあります。休学については次の事項に注意してください。

①休学の期間は当該年度に限る。ただし、やむを得ない理由があれば、さらに手続きをして休学を継続することができる。10月末日までに願い出ること。

②休学は、修士課程においては修業年限内に二度、博士後期課程においては修業年限内に三度を超えることはできない。

③休学の期間は在学年数には含まれない。ただし、休学期間中も学生としての身分は継続される。

④休学期間中の授業料等は、休学した月から休学の終わる月までの期間について、その半額が免除される。

⑤休学した者は、その学年に配当された必修科目を復学した年度にすべて再履修しなければならない。

●復学

復学は、前期のはじめとします。休学の理由が解消して復学する場合は、あらかじめ復学後の学習方法などについて所属研究室に相談した上で、学長に願い出なければなりません。「復学願」に医師の診断書または保証人の理由書を添えて教務チームに提出してください。

●退学

病気その他やむを得ない理由によって、退学しようとするときは、学長に願い出なければなりません。所定の「退学願」にその理由を明記し、保証人と連署の上、教務チームに提出してください。

また博士後期課程に3年以上在学し、所定の単位を取得した者で論文審査に合格していない場合は「単位取得退学願」を提出することで、単位取得退学となります。

この他に、本人からの願い出がなくても、次のような場合には研究科委員会の議を経て学長は退学を命ずることがあります。

- ①休学の期間を除いて、修士課程に4年間、博士後期課程に6年間在学しても修了できない場合。
- ②休学の期間を過ぎても復学の願い出がない場合。
- ③授業料を滞納して、督促を受けても納入しない場合。ただし、退学決定後一定期間内に授業料の納入があった場合には、退学が取り消されることがある。
- ④死亡、または2年以上行方がわからない場合。

武蔵野美術大学試験実施要領

(目的)

第1条 この要領は、武蔵野美術大学（造形学部通信教育課程を除く。以下「本学」という。）において行う本学学則第35条に定める試験（本学大学院を含む。以下「試験」という。）について定める。

(定義)

第2条 この要領において次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 筆記試験 会場において筆記により行う試験
- (2) レポート試験 あらかじめ提示された課題について記されたレポートを提出する試験

(試験期間)

第3条 試験期間は年度ごとの学事予定に従って前期及び後期の最終の1週間を指定する。ただし、本学学則第12条第2号に定める休日が当該週間にある場合は適当日数を加える。

- 2 筆記試験は当該試験期間の通常の授業を行う曜日及び時限に行う。ただし、前項但書きによる場合及び特に必要な場合は別の曜日及び時限を指定することができる。
- 3 レポート試験のレポートを回収する日時は試験期間のうちから適当日時を指定する。
- 4 前各項にかかわらず授業科目の必要から試験期間以外の日時において筆記試験又はレポート試験を行うことができる。

(受験資格)

第4条 試験を受験しようとする者は次の各号のすべてを満たさなくてはならない。

- (1) 受験する授業科目の履修登録を行つていること
- (2) 受験する授業科目の授業の3分の2以上を出席していること
- (3) 授業科目ごとに担当教員が定めた条件がある場合はその条件を満たしていること

(試験の告知)

第5条 試験期間は、試験期間の初日の1月前までに掲示その他の方法により告知する。

- 2 レポート試験の回収日時、授業科目ごとの筆記試験の実施日時及び場所並びにレポート試験の課題及び形式は試験期間の初日の10日前までに掲示その他の方法により告知する。

(試験監督)

第6条 筆記試験の試験監督は授業科目の担当教員が行い、不可能な場合は本学の教員又は職員が行う。

- 2 試験監督は当該授業科目の試験の実施全般を監督し、受験者の出欠及び解答用紙の回収について教務チームに報告する。
- 3 受験者が多数に及ぶとき等に、本学の助手、教務補助員その他のうちから試験監督補助者を指定する。

(入退室)

第7条 筆記試験において試験開始時刻より20分を超えて遅刻した場合は受験資格を失う。

- 2 筆記試験においては試験開始時刻より30分を超えるまでは、疾病その他試験監督が認めた場合を除いて、退場することはできない。

(不正)

第8条 筆記試験において次の各号の一に該当する行為を行つた場合は不正とする。

- (1) 試験を行つているときに他の学生の解答を覗き見又は他の学生に見せること
- (2) 試験を行つているときに試験監督の許可なく発声、移動、用具の貸借又は試験の妨害を行うこと
- (3) 履修者以外の者が受験すること
- (4) 許可された物品及び機材以外のものを使用すること
- (5) 解答用紙を持ち帰ること
- (6) その他試験監督の指示に従わないこと
- 2 レポート試験においては履修者以外の者が代理してレポートを作成し、又は他の者が作成した文章を自ら作成したレポートとして提出する場合は不正とする。

(不正への対応)

第9条 試験監督、試験監督補助者及び試験の採点に当たる担当教員は不正を防止するために注意し、不正の疑義のある行為について教務チームに報告しなければならない。

- 2 試験監督は不正の疑義のある者に対して証拠の提出及び会場からの退場を命じることができる。
- 3 不正の報告があつた場合、教務チームはすみやかに学長に報告しなければならない。
- 4 不正を行つた者については、当該試験期間のすべての試験を無効とし、本学学則第54条又は本学大学院規則第42条により懲戒する。ただし、前条第1項第3号については依頼した者も不正を行つたものとみなす。

(追試験)

第10条 疾病等の事由により受験できなかつた受験者が別に定める手続きにより申し出たとき、授業科目を担当する教員が認めた場合は追試験を行うことができる。

- 2 追試験の不合格及び未受験の場合、さらに追試験を行うことはできない。

(再試験)

第11条 最終学年に在学する学生が卒業又は修了のための所要単位が満たないとき、別に定める手続き及び条件により再試験を行うことができる。

- 2 再試験の不合格及び未受験の場合、さらに再試験を行うことはできない。

(改廃)

第12条 この要領の改廃は、造形学部教授会及び研究科委員会の議を経て、学長が決定する。

附 則

この要領は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成27年4月1日から施行する。

個人情報取り扱いについて

本学では、「学校法人武蔵野美術大学個人情報保護基本方針（プライバシーポリシー）」に基き、次の通り取り扱います。

1. 教務チーム管理書類および電子データ

〈書類〉

- | | | |
|----------------------|---|---------|
| ①学籍簿 | } | 入学手続き書類 |
| ②住民票 | | |
| ③誓約書・保証書 | | |
| ④学生証用写真台帳 | | |
| ⑤卒業証明書 | | |
| ⑥学生証 | } | 入学後管理書類 |
| ⑦成績通知書 | | |
| ⑧住所変更届 | } | 発生時提出書類 |
| ⑨休学・退学届および関係書類（診断書等） | | |
| ⑩保証人変更届 | | |
| ⑪学費請求先変更届 | | |
| ⑫欠席届および関係書類（診断書等） | | |

〈電子データ〉

- | | | |
|----------|---|----------|
| ⑬学籍情報 | } | 在籍時管理データ |
| ⑭保証人情報 | | |
| ⑮住所情報 | | |
| ⑯履修・成績情報 | | |
| ⑰卒業情報 | | 卒業後管理データ |

2. 関係書類の取扱い

- ①学籍簿は、教務チームによる永久保管。
- ②住民票、誓約書・保証書、学生証用写真台帳は、5年間保管の後、処分。

3. 関係書類及び電子データの用途

- ①関係書類は、学籍情報の電子データ化及び学生証カード作成の資料として使用。
- ②成績通知書の保証人への送付。
- ③重要書類（判定通知書等）の本人または保証人への送付。
- ④業務上必要となる本人または保証人への通知、連絡。
- ⑤本学事務局、研究室、校友会からの業務上必要となる照会。
- ⑥その他学生本人の閲覧等、必要と認められる場合の使用。

4. 個人情報保護への取組

- ①関係書類は、教務チーム専用倉庫において施錠管理。
- ②システムは、パスワードによるセキュリティー管理（不正アクセス防止）を徹底。
- ③学外への持ち出しは、以下の例外の取扱いを除き、禁止。
学籍簿は、学籍情報の電子データ化のため外部業者に委託、作業終了後、速やかに返却させる。
学生証用写真台帳は、学生証カード作成のため外部業者に委託、作業終了後、速やかに返却させる。
- ④外部委託業者については、委託業者によるデータ加工、改竄、複写、漏洩の禁止等について、機密保持のための契約を締結。
- ⑤関係書類の複写は禁止。
- ⑥関係書類の職員の閲覧は、原則教務チーム専用倉庫内に限定。
- ⑦学生本人の学籍簿閲覧は、学生証による本人照合を必須とし、窓口受付時間内に教務チームにて可能とする。

注意事項

本人照合について

個人情報保護法の施行により、学内での各種手続には学生証（ICカード）による本人照合が必須となります。不携帯の場合は如何なる理由でも取り扱いができなくなりますので、常時携帯するよう注意してください。そのため、本人照合ができない電話による問い合わせに対しては、一切の回答ができませんので注意してください。

2021年度入学生～2020年度入学生
造形研究科修士課程／単位表
(美術専攻)

修士課程

博士後期課程

日本画コース

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	日本画研究Ⅰ	8	日本画研究Ⅲ	8
		日本画研究Ⅱ	4		

油絵コース

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	絵画研究Ⅰ	8	絵画研究Ⅲ	8
		絵画研究Ⅱ	4		

版画コース

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	版画研究Ⅰ	8	版画研究Ⅲ	8
		版画研究Ⅱ	4		

彫刻コース

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	彫刻研究Ⅰ	8	彫刻研究Ⅲ	8
		彫刻研究Ⅱ	4		

美学美術史コース ※造形学演習Ⅰは2021年度開講しない。

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	造形学演習Ⅰ	6	造形学演習Ⅱ	6
		東洋美術史研究	2		
	東洋美術史演習	2	8		
	西洋美術史研究	2			
	工芸史演習	2			
	デザイン史研究	2			
	美学芸術学研究	2			
	近現代美術史演習	2			
	現代建築論	2			

芸術文化政策コース

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	芸術文化政策特論Ⅰ	4	芸術文化政策特論Ⅱ	4
		芸術文化政策演習Ⅰ	6	芸術文化政策演習Ⅱ	6

〈デザイン専攻〉

視覚伝達デザインコース

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	視覚情報論Ⅰ	4	視覚情報論Ⅱ	4
		視覚伝達デザイン演習Ⅰ	6	視覚伝達デザイン演習Ⅱ	6

工芸工業デザインコース

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	プロダクトデザイン特論Ⅰ	4	プロダクトデザイン特論Ⅱ	4
		プロダクトデザイン演習Ⅰ	6	プロダクトデザイン演習Ⅱ	6

空間演出デザインコース

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	空間演出デザイン特論Ⅰ	4	空間演出デザイン特論Ⅱ	4
		空間演出デザイン演習Ⅰ	6	空間演出デザイン演習Ⅱ	6

建築コース

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	建築デザイン特論Ⅰ a	2	建築デザイン特論Ⅱ a	2
		建築デザイン特論Ⅰ b	2	建築デザイン特論Ⅱ b	2
	選択必修	建築設計演習Ⅰ	4	建築設計演習Ⅱ	4
		建築設計実習Ⅰ	4	建築設計実習Ⅱ	4
		建築デザイン演習Ⅰ	4	建築デザイン演習Ⅱ	4
		建築設計演習Ⅲ	4	建築設計演習Ⅲ	4
建築設計実習Ⅲ	4	建築設計実習Ⅲ	4		
建築デザイン演習Ⅲ	4	建築デザイン演習Ⅲ	4		
専門Ⅱ類	選 択	建築設計インターンシップⅠ	4	建築設計特論	2
		建築設計インターンシップⅡ	4	建築構法特論	2
		建築設計インターンシップⅢ	4	建築設備特論	2
				建築計画特論	2

基礎デザイン学コース

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	デザイン論特論Ⅰ	4	デザイン論特論Ⅱ	4
		デザイン理論演習Ⅰ	6	デザイン理論演習Ⅱ	6

デザイン情報学コース

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	デザイン情報学特論Ⅰ A	2	デザイン情報学特論Ⅱ A	2
		デザイン情報学特論Ⅰ B	2	デザイン情報学特論Ⅱ B	2
		デザイン情報学統合演習Ⅰ	6	デザイン情報学統合演習Ⅱ	6

授業科目・担当教員一覧

●※印科目については、当該コースの必修科目ですが、他のコースの学生も共通科目として履修することができます。

●単位の数字に（ ）がついているものは選択科目です。

美術専攻

コース	授業科目	単位数	担当教員
日本画 コース	日本画研究Ⅰ	8	尾長良範 教授
	日本画研究Ⅱ	4	西田俊英 教授
	日本画研究Ⅲ	8	岩田壮平 教授
			間島秀徳 教授
			北澤憲昭 客員教授
			土屋禮一 客員教授
			日高理恵子 客員教授
			栗林 隆 客員教授
			荒井 経 講師
			浅見貴子 講師
			泉 桐子 講師
			今村有策 講師
			小金沢 智 講師
			竹原美也子 講師
			中村ケンゴ 講師
			橋本晶子 講師
			吉賀あさみ 講師
油絵 コース	絵画研究Ⅰ	8	赤塚祐二 教授
	絵画研究Ⅱ	4	榊山祐和 教授
	絵画研究Ⅲ	8	川口起美雄 教授
			小林孝巨 教授
			袴田京太郎 教授
			丸山直文 教授
			水上泰財 教授
			諏訪 敦 教授
			吉川民仁 教授
			小林耕平 准教授
			遠藤彰子 客員教授
			土方明司 客員教授
			町田久美 客員教授
			石井友人 講師
			泉原昭人 講師
			一色映理子 講師
			今井俊介 講師
			小尾 修 講師
			利部志穂 講師
			片山真妃 講師
			金田実生 講師
			衣川明子 講師
			熊澤未来子 講師
			杉浦 藍 講師
			高堀正俊 講師
			竹内 一 講師
			玉虫良次 講師
		徳永陶子 講師	
		水野 暁 講師	
		村山悟郎 講師	
		渡辺 篤 講師	
版画 コース	版画研究Ⅰ	8	遠藤竜太 教授
	版画研究Ⅱ	4	高浜利也 教授
	版画研究Ⅲ	8	元田久治 教授
			亀山達矢 客員教授
彫刻 コース	彫刻研究Ⅰ	8	伊藤 誠 教授
	彫刻研究Ⅱ	4	富井大裕 准教授
	彫刻研究Ⅲ	8	黒川弘毅 教授
			三沢厚彦 教授
			岡崎乾二郎 客員教授
			遠藤利克 客員教授
		棚田康司 客員教授	
美学美術史 コース	※西洋美術史研究	(2)	朴 亨國 教授
	※東洋美術史研究	(2)	木田拓也 教授
	※東洋美術史演習	(2)	北澤洋子 教授
	※近現代美術史演習	(2)	玉島敏子 教授
	※工芸史演習	(2)	松浦寿夫 教授
	※デザイン史研究	(2)	前田恭二 教授
	※現代建築論	(2)	新 任 教授
	※美学芸術学研究	(2)	岡山理香 講師
	造形学演習Ⅰ	6	
	造形学演習Ⅱ	6	
○造形学演習Ⅰは2021年度開講しない。			
芸術文化政策 コース	芸術文化政策特論Ⅰ	4	是枝 開 教授
	芸術文化政策演習Ⅰ	6	佐々木一晋 准教授
	芸術文化政策特論Ⅱ	4	杉浦幸子 教授
	芸術文化政策演習Ⅱ	6	春原史寛 准教授
			高島直之 教授
			米徳信一 教授
		垣内恵美子 講師	
		林 浩平 講師	
		松浦 昇 講師	
		森 啓輔 講師	

デザイン専攻

コース	授業科目	単位数	担当教員
視覚伝達 デザイン コース	※視覚情報論Ⅰ	4	寺山祐策 教授
	※視覚伝達デザイン演習Ⅰ	6	キュー・ジュリア 教授
	視覚情報論Ⅱ	4	齋藤啓子 教授
	視覚伝達デザイン演習Ⅱ	6	陣内利博 教授
			西本企良 教授
			白井敬尚 教授
		古堅真彦 教授	
		石塚英樹 准教授	
		中野豪雄 教授	
		北崎允子 准教授	
		新島 実 客員教授	
		後藤映則 准教授	
		堀口裕美 講師	
		北條みぎわ 講師	
工芸工業 デザイン コース	※プロダクトデザイン特論Ⅰ	4	伊藤真一 教授
	プロダクトデザイン演習Ⅰ	6	稲田真一 教授
	プロダクトデザイン特論Ⅱ	4	大村俊二 教授
	プロダクトデザイン演習Ⅱ	6	鈴木 洋 教授
		田中桂太 教授	
		中原俊三郎 教授	
		西川 聡 教授	
		山中一宏 教授	
空間演出 デザイン コース	※空間演出デザイン特論Ⅰ	4	天野 勝 教授
	空間演出デザイン演習Ⅰ	6	太田雅公 教授
	空間演出デザイン特論Ⅱ	4	池田ともゆき 教授
	空間演出デザイン演習Ⅱ	6	小池博史 教授
		五十嵐久枝 教授	
		片山正通 教授	
		小泉 誠 客員教授	
		鈴木康広 教授	
		ハトリック・ライオン 教授	
		津村耕祐 教授	
建築 コース	建築設計インターンシップⅠ	(4)	小西泰孝 教授
	建築設計インターンシップⅡ	(4)	鈴木 明 教授
	建築設計インターンシップⅢ	(4)	高橋晶子 教授
	建築設計実習Ⅰ	(4)	布施 茂 教授
	建築設計実習Ⅱ	(4)	菊地 宏 教授
	建築設計実習Ⅲ	(4)	持田正憲 教授
	建築デザイン演習Ⅰ	(4)	長谷川浩己 教授
	建築デザイン演習Ⅱ	(4)	土屋公雄 客員教授
	建築デザイン演習Ⅲ	(4)	永山祐子 客員教授
	建築設計演習Ⅰ	(4)	アストリッド・クライン 客員教授
	建築設計演習Ⅱ	(4)	川村政治 講師
	建築設計演習Ⅲ	(4)	奥村誠一 講師
	建築デザイン特論Ⅰa	2	
	建築デザイン特論Ⅰb	2	
	建築デザイン特論Ⅱa	2	
	建築デザイン特論Ⅱb	2	
	建築計画特論	(2)	
	建築設備特論	(2)	
	建築設計特論	(2)	
	建築構法特論	(2)	

デザイン専攻

コース	授業科目	単位数	担当教員
基礎 デザイン学 コース	※デザイン論特論 I	4	原 研哉 教授
	デザイン理論演習 I	6	板東孝明 教授
	デザイン論特論 II	4	小林昭世 教授
	デザイン理論演習 II	6	柴田文江 教授 菱川勢一 教授 平尾 始 講師 田中良治 准教授 清水恒平 准教授 畑 一成 講師
デザイン 情報学コース	※デザイン情報学特論 I A	2	白石 学 教授
	※デザイン情報学特論 I B	2	長澤忠徳 教授
	デザイン情報学特論 II A	2	森山明子 教授
	デザイン情報学特論 II B	2	佐藤淳一 教授
	デザイン情報学統合演習 I	6	高山 稷 教授
	デザイン情報学統合演習 II	6	井上尚司 准教授 大石啓明 講師 瀧本往人 講師 Jag Yamamoto 講師

共通科目

	授業科目	単位数	
各コース 共通科目	造形民俗学研究	(4)	
	西洋美術史研究	(4)	
	日本美術史研究	(4)	
	東洋美術史演習	(4)	
	現代芸術研究	(4)	
	近現代美術史演習	(4)	
	デザイン史研究	(4)	
	工芸史演習	(4)	
	現代建築論	(4)	
	東洋美術史研究	(4)	
	美学芸術学研究	(4)	
	日本近現代美術史研究	(4)	
	ユング芸術心理学研究	(4)	
	芸術情報処理研究	(4)	
	環境生態学特論	(2)	
	映像芸術論	(4)	
	作家・作品研究	(4)	
	美術教育研究	(4)	
	教育学研究	(4)	
	コンテクスチュアル・スタディーズ演習 I	(2)	
	コンテクスチュアル・スタディーズ演習 II	(2)	
	インタラクティブ・イノベーション演習 I	(2)	
	インタラクティブ・イノベーション演習 II	(2)	
	イノベーションのためのデザイン哲学	(2)	
	他コース 履修可能 科目	視覚情報論 I	(4)
		視覚伝達デザイン演習 I	(6)
		プロダクトデザイン特論 I	(4)
空間演出デザイン特論 I		(4)	
デザイン論特論 I		(4)	
映像・写真特論		(4)	
写真特論 I		(4)	
デザイン情報学特論 I A		(2)	
デザイン情報学特論 I B	(2)		

○芸術情報処理研究、現代都市論、コンテクスチュアル・スタディーズ演習 II、インタラクティブ・イノベーション演習 II、視覚情報論 I、視覚伝達デザイン演習 I、ユング芸術心理学研究は 2021 年度開講しない。

理念・教育目標

造形学部では日本画の制作をとおして、造形や美術史、素材の研究などから表現を深めてきましたが、大学院ではより解放された視点から日本画を捉えなおして自己の表現に向き合います。

日本画という言葉自体、絵画と国という概念を含んでいることから文化的な拠り所を意識することに繋がりますが、従来の日本画の価値観を受けとめるだけではなく、日本とは日本画とは何かを考えることや、グローバルな視点に立って現代の芸術として意識し、制作することが重要になってきます。

大学院では、何を考えて造るのか？ どう表現するのか？ という問い、発表することの意味などに向き合います。それらの問いを論理的に進めることで表現への意識を深めることができるように考えています。

カリキュラムは各自の自主性をもって行うこととなりますが、展示ゼミや各種の伝統技法に対応したゼミなどを希望に応じて受けることができます。展示ゼミや様々な展覧会、個展などで発表の機会を重ねることで、客観的に自分の作品をみつめ、自己の表現への意識を深めます。

表現に対する「思考」と、制作と発表という「実践」を重ねて社会との関わりのなかで表現者として活動して行くのに必要な専門性を得られるよう、全教員が個別に指導して行きます。

アドミッション・ポリシー

日本画をとおして造形や美術史、素材の研究を行い、自主的に表現の可能性を追求したいという強い意欲を持つ学生を募ります。

カリキュラム・ポリシー

歴史や社会との関わりのなかで自己の表現を論理的に考えることで意識を深め、それに基づいた課題を設定し自主的に取り組みます。

表現への意識を深め、制作、発表を通して表現者として活動して行くために必要な専門性を得られるよう、全教員が個別に指導して行きます。

ディプロマ・ポリシー

本学科では日本独自の文化を背景に現代の多様な価値観のなかで思考し創造できる専門性を持った表現者の育成を目標としています。

学位が授与されるためには以下のことが求められます。

- 表現に対応した技術を持ち、それを十分に深めているか。
- 自己の表現について主体的に取り組み、論理的にプレゼンテーションできるか。
- 歴史や社会との関わりのなかで自己の表現の意味を考えているか。

美術専攻 日本画コース

造形専門科目教育課程表

修士課程

博士後期課程

月	2021年4月			5月			6月			7月			8月				
日	5 10	12 17	19 24	26 1	3 8	10 15	17 22	24 29	31 5	7 12	14 19	21 26	28 3	5 10	12 17	7/19 8/21	
期		1期			2期			3期									
授業週	入学式 4/5	オリエンテーション週間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	夏季休業 7/19~9/4
学事予定		前期授業開始 4/12								6/12 13 教育実習	オープンキャンパス			前期授業終了 7/10	前期補講 前期定期試験週間 7/12~17		
1年	日本画研究 I																
2年	日本画研究 III																

• オリエンテーション週間 4/5~4/10

8月	9月		10月			11月			12月			2022年1月~3月									
23 28	30 4	6 11	13 18	20 25	27 2	4 9	11 16	18 23	25 30	1 6	8 13	15 20	22 27	29 4	6 11	13 18	20 25	12/27 1/8	1/10 3/31		
		4期			5期				6期			7期									
	15	16	17	18	19	20	21	22	23		24	25	26	27	28	29	30	後期補講 後期定期試験週間 12/20~25	冬季休業	卒業制作論文(提出採点)	
			後期授業開始 9/6							芸術祭活動						後期授業終了 12/18					
	日本画研究 I									日本画研究 II											
	修了制作									修了制作											

• 祭典 10/29~10/31

• 卒制展 1/13~1/16

美術専攻 油絵コース

理念・教育目標

大学院造形研究科美術専攻油絵コースでは、充実した制作環境と指導体制における作品制作が最も重要です。そこから生み出される作品は視覚的な美しさを持つだけでなく、批評的強度を持ちうるものでなければなりません。さらに大学院修了後に作品制作のエキスパートとして活動していくためには、自作品における可能性や問題点を客観的にとらえ、実践していけることが重要です。それには実制作だけにとどまらず作品の構造を論理的にとらえ、美術史や社会状況をふまえた柔軟な思考による研究姿勢が望まれます。

アドミッション・ポリシー

大学院造形研究科美術専攻油絵コースでは、絵画を中心に、インスタレーション、映像などさまざまなジャンルの美術作家を養成することを主な目的としています。そのため入学するには作品に十分な内容と質を備えていることに加えて、知的好奇心を持ち、常に謙虚に学ぼうとする姿勢があり、作品制作、作品研究の双方に高い向上心を持って取り組めることが重要です。

カリキュラム・ポリシー

大学院造形研究科美術専攻油絵コースでは、学生の主体的で自由な制作を最大限に活かせるようにカリキュラムを編成しています。美術作家の養成を明確な目的とした本コースでは、在学中から学生という立場を超えて、ひとりの美術作家として自らの作品制作・研究を行う意識を養うことが最も重視されます。そのため大学院1年次では「絵画研究Ⅰ・Ⅱ」、2年次では「絵画研究Ⅲ」というように課題をシンプルに編成し、学生のさまざまな制作スタイルに柔軟に対応できるように配慮されています。そのなかで学生たちは、担当教員を中心にさまざまな教員や周りの学生たちとの対話のなかから作品制作の具体的な方向性を模索し、美術史や社会状況をふまえた深い思考による研究の機会を持ちます。またカリキュラムにかかわらず、活躍中の美術作家や美術批評家、学芸員などの外部からの特別講師などによる直接指導が随時行われ、学生の制作・研究をサポートしていきます。

ディプロマ・ポリシー

大学院造形研究科美術専攻油絵コースでは以下のような学生に学位を与え、修了認定をします。

- 主体的に作品制作に取り組み、美術作家として質の高い独自の表現を身につける。
- 絵画を中心とした美術史・美術理論に幅広い知識を有し、それをふまえた観点から作品制作者としてのみならず、批評性を有した作品鑑賞者としても柔軟に美術をとらえることができる。
- 自らの作品制作を通じて様々な社会状況と有機的な関わりを模索し、美術の世界だけにとどまらず、社会性を持った美術作家としての意識を持つ。

美術専攻 油絵コース

造形専門科目教育課程表

修士課程

博士後期課程

月	2021年4月			5月			6月			7月			8月				
日	5 10	12 17	19 24	26 1	3 8	10 15	17 22	24 29	31 5	7 12	14 19	21 26	28 3	5 10	12 17	7/19 8/21	
期		1期			2期			3期									
授業週	入学式 4/5	オリエンテーション週間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	夏季休業 7/19~9/4
学事予定		前期授業開始 4/12								6/12 13 教育実習	オープンキャンパス				前期授業終了 7/10	前期補講 前期定期試験週間 7/12~17	
1年	絵画研究 I																
2年	絵画研究 III																

• オリエンテーション週間 4/5~4/10

8月	9月		10月			11月			12月			2022年1月~3月												
23 28	30 4	6 11	13 18	20 25	27 2	4 9	11 16	18 23	25 30	1 6	8 13	15 20	22 27	29 4	6 11	13 18	20 25	12/27 1/8	1/10 3/31					
		4期			5期				6期			7期												
15	16	17	18	19	20	21	22	23		24	25	26	27	28	29	30	後期授業開始 9/6	芸術祭活動	後期授業終了 12/18	後期定期試験週間 12/20~25	後期補講	冬季休業	卒業制作論文(提出採点)	卒業式 3/18
		絵画研究 I								絵画研究 II														
							修了制作																	
		修了制作								修了制作														

• 祭典 10/29~10/31

• 卒制展 1/13~1/16

美術専攻 版画コース

理念・教育目標

急速に浸透するデジタル印刷技術の革新や、多様化する現代美術表現の渦中において、版画表現においても単に技術、技法の習得にとどまらず、表現の本質を真摯に研究することが求められている。本学版画コースでは浮世絵などを代表とする日本独自の版画の根底にある文脈、すなわち『伝統』を理解し、継承する一方で、今生きている社会を見据えて発信する『現代』の清新的版表現の獲得を目指している。版画研究を通して時代を超えて存在する美術の本質を理解し、高度な専門性と豊かな教養を兼ね備えた表現者を育成し、文化の発展に寄与し社会に貢献することを目標とする。

アドミッション・ポリシー

版による表現に真正面から取り組み、作品によって社会に広く発信してゆく表現者を養成することを目指している。よって、版画に対する広範な知識を持ち、独自の表現を提示できる技術、技法を習得しながら作品概念を展開し、版画表現の可能性を追求することが可能な人材を求める。

- 独創的な研究制作テーマを自主的に設定し、版画表現を通して自己実現しながら、創造の本質を問うことができる。
- 作品概念を追い求めるだけでなく、また技術、技法のみに溺れることなく、両者を両立させながら、新たな版画表現の可能性を追求することができる。
- 個の創造領域では独創性を発揮しつつ、共有する工房空間の中では適度な社会性を保ちながら、表現者として研究制作を円滑に進め、作品によって社会に広く発信することが出来る。

カリキュラム・ポリシー

全体

与えられるのではなく、自ら問題提起しながら自主的に計画を立案し、それを起点により高度な専門領域の研究制作を進める。基本的には銅版・リトグラフ・木版・シルクスクリーンなどの主専攻とする版種の技術、技法による表現を中心に、必要に応じて版種をまたいだ制作や、他の複数メディア表現への展開も可能とする。

1年次

主専攻とする各版種における、より高度な技術、技法を習得しながら作品概念を展開し、さらなる専門性を追求する。

2年次

真摯に修了制作に取り組み、新たな版画の地平を切り拓くような、意欲溢れた高度な水準の作品制作を実践する。

ディプロマ・ポリシー

版画表現の持つ伝統的な要素や歴史の積み重ねを最大限、尊重しつつも、現代の美術表現としての同時代性も重視する先進的な教育環境のもと、より専門的で高度な素養を習得したうえで、表現者としての真の創造性を作品制作により広く社会に問うことが出来たかを判断基準とする。

- 自ら設定した制作研究テーマを基軸に、表現を深化させ、生涯をかけて探求することができる創造の方向性を見極めることが出来たか。
- 独創的な作品概念を展開させながら専門的な技術・技法を習得し、一定の水準を有する版画作品として具現化することが出来たか。
- 制作研究を通して、表現者としての真の創造性を獲得したうえで、修了制作においてその世界観を広く社会に問うことが出来たか。

美術専攻 版画コース

造形専門科目教育課程表

修士課程

博士後期課程

月	2021年4月			5月			6月			7月			8月				
日	5 10	12 17	19 24	26 1	3 8	10 15	17 22	24 29	31 5	7 12	14 19	21 26	28 3	5 10	12 17	7/19 8/21	
期		1期			2期			3期									
授業週	入学式 4/5	オリエンテーション週間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	夏季休業 7/19~9/4
学事予定		前期授業開始 4/12								6/12 13 教育実習	オープンキャンパス				前期授業終了 7/10	前期補講 前期定期試験週間 7/12~17	
1年	版画研究Ⅰ (版種別専攻)																
2年	版画研究Ⅲ (版種別専攻)																

• オリエンテーション週間 4/5~4/10

8月	9月		10月			11月			12月			2022年1月~3月												
23 28	30 4	6 11	13 18	20 25	27 2	4 9	11 16	18 23	25 30	1 6	8 13	15 20	22 27	29 4	6 11	13 18	20 25	12/27 1/8	1/10 3/31					
		4期			5期				6期			7期												
15	16	17	18	19	20	21	22	23		24	25	26	27	28	29	30	後期授業開始 9/6	芸術祭活動	後期授業終了 12/18	後期定期試験週間 12/20~25	後期補講	冬季休業	卒業制作論文(提出採点)	卒業式 3/18
版画研究Ⅰ (版種別専攻)			版画研究Ⅰ (版種別専攻)			版画研究Ⅰ (版種別専攻)			版画研究Ⅱ (版種別専攻)			版画研究Ⅱ (版種別専攻)		版画研究Ⅱ (版種別専攻)		版画研究Ⅱ (版種別専攻)		版画研究Ⅱ (版種別専攻)		版画研究Ⅱ (版種別専攻)		版画研究Ⅱ (版種別専攻)		
修了制作 (版種別専攻)			修了制作 (版種別専攻)			修了制作 (版種別専攻)			修了制作 (版種別専攻)			修了制作 (版種別専攻)		修了制作 (版種別専攻)		修了制作 (版種別専攻)		修了制作 (版種別専攻)		修了制作 (版種別専攻)		修了制作 (版種別専攻)		

• 祭典 10/29~10/31

• 卒制展 1/13~1/16

美術専攻 彫刻コース

理念・教育目標

彫刻コースは、対外的な発表を含み実際に社会に対して表現を発信して行く場として、世界的な視野に立ち 専門家として自立して創作・研究活動を行う人材を育成することを目的とします。

アドミッション・ポリシー

専門的な個人指導に加えて、国内外で活躍する作家、研究者による理論と制作両面のゼミが計画的に行われます。追求すべきテーマを持ち、専門的な多方面からの批評と指導の中で研鑽を深化することのできる人材を募ります。

- 彫刻における優れた表現技術を持ち、創造・研究活動を通して社会に関わろうとする人。
- 独自の表現領域を持ち、創造・研究活動を通して社会に関わろうとする人。
- 彫刻の表現に疑問を持ち、創造・研究活動を通して社会に関わろうとする人。

カリキュラム・ポリシー

彫刻コースの研究課程は段階的な指導を踏むわけではなく、対外的な発表を含めた各自の制作計画を前提とします。各自の研究テーマに従った専門性・独自性の追求が核となりますが、それ以上に作品を成り立たせている基盤を問う事を主眼とした指導を行います。2年間を通じての計画概要とは、そのための方法論、技術、メディアの追求、作品と社会に関わらせる手段の考察、自己の作品に対する批判的な展開の可能性、等について客員教授を含めた美術批評等様々な他領域との複合的な批評を行います。

ディプロマ・ポリシー

彫刻を基盤とした美術に関わる専門家として優れたオリジナリティを持ち、社会に対して自立して活動できる人材を育成するという目的において、コースにおける最終的な研修成果を問うために、修了制作（公開展示）として次の事項について研究室教員全員で総合的に判断し評価します。

- 表現の独自性が探求されているか。
- 表現における優れた技術が認められるか。
- 自己のテーマに沿った制作の展開が行われたか。
- 表現者として意識を持ち、対外的な発表が積極的に行われたか。

美術専攻 彫刻コース

造形専門科目教育課程表

修士課程

博士後期課程

月	2021年4月			5月			6月			7月			8月				
日	5 10	12 17	19 24	26 1	3 8	10 15	17 22	24 29	31 5	7 12	14 19	21 26	28 3	5 10	12 17	7/19 8/21	
期		1期			2期			3期									
授業週	入学式 4/5	オリエンテーション週間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	夏季休業 7/19~9/4
学事予定		前期授業開始 4/12									6/12 13 オープンキャンパス				前期授業終了 7/10	前期補講 前期定期試験週間 7/12~17	
										教育実習							
1年	彫刻研究 I																
2年	彫刻研究 III																

• オリエンテーション週間 4/5~4/10

8月	9月			10月			11月			12月			2022年1月~3月						
23 28	30 4	6 11	13 18	20 25	27 2	4 9	11 16	18 23	25 30	1 6	8 13	15 20	22 27	29 4	6 11	13 18	20 25	12/27 1/8	1/10 3/31
	4期			5期				6期			7期								
15	16	17	18	19	20	21	22	23		24	25	26	27	28	29	30	後期補講 後期定期試験週間 12/20~25	冬季休業	卒業制作論文(提出採点)
		後期授業開始 9/6								芸術祭活動					後期授業終了 12/18				
	彫刻研究 II																		
	修了制作																		

• 祭典 10/29~10/31

• 卒制展 1/13~1/16

美術専攻 美学美術史コース

理念・教育目標

修士課程美術専攻 美学美術史コースでは、造形表現の歴史的、理論的な研究を学ぶ。研究対象は、時代としては古代から現代まで、地域としては日本、東洋、西洋、また分野としては美術、工芸、デザイン、建築を対象とし、諸ジャンルや境界にとらわれない総合的な教育を行う。また作品に表されているものそれ自体を感覚と知性を働かせて解明し、作品の意義を探究する能力の習熟を目指す。

アドミッション・ポリシー

自分の研究テーマを持ち、それを探究するための健全な主体性と行動力を有し、問題を追及するための洞察力を真剣に身に付けようとする学生を求めている。各自のテーマに必要な文献資料（史料）を読むための語学力をそなえていることを求める。学部の段階で美術史・芸術学を学んだものだけではなく、実技・制作を学んだ人たちの入学も歓迎する。

カリキュラム・ポリシー

本コースの理念・教育目標に従い、総合的かつ専門的な学修が可能なカリキュラムを編成する。美術史学の課題は、伝存する作品ないし現代の作品を調査分析して、美術の歴史的展開を明らかにすることである。印象のみによる独白は求められない。図像学の手法による場合でも、意味論に傾き過ぎることなく、作品の質を問題にする。眼の記憶を豊かにし、各々の目の判断力を伸ばすために、授業とともに美術館、博物館、修復工房などの見学、古美術研究旅行を行っている。担当教員だけでなく、演習発表を通して複数の教員が指導にあたり、広い視野から問題を検証する。

ディプロマ・ポリシー

必要な単位を修得し、修士論文を提出し合格したものに学位を与える。課程の大成である修士論文は、学外からの批評に耐えうる内容となることを目指す。論文は、問題設定の独自性、新知見の有無、検証方法の正当性、史資料の調査能力と分析能力、論述能力などについて、総合的に判断され、評価される。

時間割

	1時限 (8:50~10:20)	2時限 (10:30~12:00)	3時限 (13:20~14:50)	4時限 (15:00~16:30)	5時限 (16:40~18:00)
月		※美学芸術学研究 (松浦)	※西洋美術史研究 (北澤)	※現代建築論 (岡山)	
火		※工芸史演習 (木田)	☆現代芸術研究 (未定)	☆日本美術史研究 (玉蟲)	※東洋美術史研究 (朴) ※近現代美術史演習 (未定)
水	◎造形学演習				
木		※東洋美術史演習 (朴)	※デザイン史研究 (木田)	☆日本近現代美術史研究 (前田)	
金					

- ☆……各コース共通の選択科目
- ◎……当該コースの必修科目
- ※……当該コースの選択必修科目であるが、他のコースの学生も共通選択科目として履修できる。

美術専攻 芸術文化政策コース

理念・教育目標

コース名にある「文化政策」とは、政府・自治体の「文化施策・方針（ガヴァメント・ポリシー）」を意味するのではなく、美術と社会をめぐる諸事象を支えている「思想・理念」、すなわち「アート・ポリシー」を指します。芸術文化を真に人々のものとするために、芸術を求める心や〈美〉のありかを広く探求しつつ、社会とアートの関わりを考察し、専門的な高い教養を身につけた人材を育成します。さらに、従来の芸術学や美術史的研究をも包括します。

アドミッション・ポリシー

主に、学芸員、美術教育者、美術館教育普及、美術・デザイン批評、出版編集、アート・デザインマネジメント、学術研究者などを希望する、学習意欲の高い入学志願者を求めます。

カリキュラム・ポリシー

1、2年次を通して「芸術文化政策演習」と「芸術文化政策特論」を履修し、芸術文化の多面的なあり方と、現代が突き当たった芸術状況を皆と共に知識と経験を通じて考察します。カリキュラムには、比較文化や美術理論の講義、オムニバスによるテーマに沿ったディスカッション、テキスト購読、展覧会のキュレーションや冊子編集、論文執筆などがあります。さまざまな知見をつきあわせて、マネジメントの基礎をプロセスとして学ぶことができます。また、美術館やギャラリーを併設し、展覧会が常に開催されていますので、他大学とは違った現場教育の実際的な特長をもっています。

ディプロマ・ポリシー

所定の単位取得のほかに、1年次に、ディスカッションでの公开发表、プレ修士論文などの提出があります。2年次には、複数回の修士論文中間発表を行います。最終の修士論文は、40,000字以上、という提出規定があり、これらを総合して、修了認定の評価を行います。

美術専攻 芸術文化政策コース

造形専門科目教育課程表

修士課程

博士後期課程

月	2021年4月			5月			6月			7月			8月			
日	5 10	12 17	19 24	26 1	3 8	10 15	17 22	24 29	31 5	7 12	14 19	21 26	28 3	5 10	12 17	7/19 8/21
期		1期			2期			3期								
授業週	入学式 4/5 オリエンテーション週間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
学事予定		前期授業開始 4/12								6/12 13 オープンキャンパス				前期授業終了 7/10 前期定期試験週間 7/12 17 前期補講		夏季休業 7/19 9/4
		教育実習														
1年		芸術文化政策演習 I(木3) [是枝・佐々木・杉浦・春原・米徳] 芸術文化政策特論 I(金4) [垣内]														
2年		芸術文化政策演習 II [専任教員全員] 芸術文化政策特論 II(月2) [松浦]														

• オリエンテーション週間 4/5~4/10

8月	9月		10月			11月			12月			2022年1月~3月							
23 28	30 4	6 11	13 18	20 25	27 2	4 9	11 16	18 23	25 30	1 6	8 13	15 20	22 27	29 4	6 11	13 18	20 25	12/27 1/8	1/10 3/31
		4期			5期				6期			7期							
		15	16	17	18	19	20	21	22	23		24	25	26	27	28	29	30	
				後期授業開始 9/6							芸術祭活動						後期授業終了 12/18 後期定期試験週間 12/20 25 後期補講	冬季休業	卒業制作論文(提出採点)
		芸術文化政策演習 I(木4) [高島] 芸術文化政策特論 I(火3) [林] 芸術文化政策演習 II [専任教員全員] 芸術文化政策特論 II(月2) [森]																	

• 祭典 10/29~10/31

• 卒制展 1/13~1/16

デザイン専攻 視覚伝達デザインコース

理念・教育目標

修士課程前期視覚伝達デザインコースはヴィジュアル・コミュニケーション・デザイン領域における表現、手法、理論において、デザインの高度化への社会の要請に応え、かつ国際的にも活躍しうる人材を育成します。その領域は学部の視覚伝達デザイン領域に含まれるグラフィック、視覚情報、視覚環境系はもとより、デザイン方法論、デザイン史、ソーシャルデザイン、他の学際領域とのコラボレーションによる新たなデザイン領域の開拓等が含まれます。

アドミッション・ポリシー

私達が望む院生の人物像とは、ヴィジュアル・コミュニケーション・デザインの分野において、自身の研究テーマあるいは制作活動をより深く詳細に独自の視点で展開し、デザインの今日的なあるいは近未来的な問題解決に取り組もうとしている人。

カリキュラム・ポリシー

大学院教育で視覚伝達デザインコース入学者全員に必須とされているのは

- (1) 全ての視覚的な媒体の分析の基本として視覚記号論を学ぶ。
- (2) ヴィジュアル・コミュニケーション史を前提にして情報に対する創造的なリサーチと分析、編集、統合（視覚的シンタックス）手法を学ぶ。
- (3) 生態学的知覚論と心理学を軸とした学際領域の知見の習得。
- (4) 国際的なデザイン領域を学び、新たなソーシャルデザインの可能性の発見。

共通必修と並行して1年次から専任教員が主査として、入学者の学習目的にあわせて徹底した専門教育を行い、修士論文または修士制作に繋げていきます。必要な場合、副査指導教員として学内外の専門家を招聘することもあります。

ディプロマ・ポリシー

2年間の研究あるいは制作が独自の視点を持ち、社会の批判に耐え得る内容を伴っているかが問われることとなります。デザインの諸領域に対するアプローチの場合、そのアプローチの設定の独自性が問われることになり、デザインを通じて社会に働きかけをするアプローチの場合は、フィールドワークの充実が必須の条件となります。指導教員による評価と修論・制作発表会における外部からの批評を経て修了に対する最終評価が行われます。

デザイン専攻 視覚伝達デザインコース

造形専門科目教育課程表

修士課程

博士後期課程

月	2021年4月			5月			6月			7月			8月			
日	5 10	12 17	19 24	26 1	3 8	10 15	17 22	24 29	31 5	7 12	14 19	21 26	28 3	5 10	12 17	7/19 8/21
期		1期			2期			3期								
授業週	入学式 4/5 オリエンテーション週間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
学事予定		前期授業開始 4/12								6/12 13 オープンキャンパス				前期授業終了 7/10 前期定期試験週間 7/12 17 前期補講		夏季休業 7/19 9/4
		教育実習														
1年		視覚伝達デザイン演習 I(寺山・石塚・北條) 視覚情報論 I(堀口) 修了論文・制作指導(キュー・齋藤・白井・陣内・寺山・西本・古堅・石塚・中野・北崎・後藤・北條・堀口・新島)														
2年		視覚伝達デザイン演習 II(後藤・新島) 視覚情報論 II(キュー・齋藤・白井・陣内・寺山・西本・古堅・石塚・中野・北崎・後藤) 修了論文・制作指導(キュー・齋藤・白井・陣内・寺山・西本・古堅・石塚・中野・北崎・後藤・北條・堀口・新島)														

• オリエンテーション週間 4/5~4/10

8月	9月		10月			11月			12月			2022年1月~3月							
23 28	30 4	6 11	13 18	20 25	27 2	4 9	11 16	18 23	25 30	1 6	8 13	15 20	22 27	29 4	6 11	13 18	20 25	12/27 1/8	1/10 3/31
	4期		5期						6期		7期								
15	16	17	18	19	20	21	22	23		24	25	26	27	28	29	30			
		後期授業開始 9/6							芸術祭活動						後期授業終了 12/18 後期定期試験週間 12/20 25	後期補講	冬季休業	卒業制作論文(提出採点)	卒業式 3/18
	視覚伝達デザイン演習 I(寺山・石塚・北條) 視覚情報論 I(堀口) 修了論文・制作指導(キュー・齋藤・白井・陣内・寺山・西本・古堅・石塚・中野・北崎・後藤・北條・堀口・新島)																		
	視覚伝達デザイン演習 II(後藤・新島) 視覚情報論 II(キュー・齋藤・白井・陣内・寺山・西本・古堅・石塚・中野・北崎・後藤) 修了論文・制作指導(キュー・齋藤・白井・陣内・寺山・西本・古堅・石塚・中野・北崎・後藤・北條・堀口・新島)																		

• 祭典 10/29~10/31

• 卒制展 1/13~1/16

デザイン専攻 工芸工業デザインコース

理念・教育目標

博士課程前期工芸工業デザインコースでは、専門性を追求する上で、より時間を費やしあらゆる試行を繰り返し検証できることを目標にしています。プロダクトデザイン全般において多様化する考え方への認識を深め、他方向への選択肢など考察しながら、より精度の高いデザインを追求することを研究室一体となり取り組みます。クラフトデザイン領域ではファインアートに向かう専門家から絵画、造形表現を背景に魅力あるカタチをもとにアプライドアートとして社会との接点を重視し養成することを目指します。

アドミッション・ポリシー

工芸工業デザインコースは世の中に優良なデザイン商品を提案しようとするデザイナー資質を有する者、またファインアートに至るまでモノの本質にせまる作家志向の人材を選びます。それぞれ目標は異なりますが、社会に必要な道具や作品に対して時間をかけ再度掘り下げ熟考できる人材を求めます。

カリキュラム・ポリシー

プロダクトデザイン系では1年次ではこれまでのモノ作りのあり方、また既存のデザインについて検証すること、日本と海外のモノの流れや考え方を分析し2年次ではさらに論評を加え各自の研究分野の方向性を専門教員と探っ て行きます。クラフトデザインでは日本独自の工芸研究を含め、高度な技術や表現方法を身につけ思考の熟成を促し習作を重ねさらに文章化すること、2年次では社会に還元できるモノ作りの姿勢を探求し、文化を牽引する表現を視野に入れ、作品制作を重く位置付けます。

ディプロマ・ポリシー

過去、現在の生活環境のあらゆるデザインをリサーチ、検証し文章等でまとめる。技法、それを取り巻くツール及び多岐にわたる素材の研究。日本と海外のモノ（工芸作品を含む）の流れや考え方がレポートされていること。社会に反映させるべく考察がなされ、各自のデザインしたモノ、作品が現代社会にどのように受け入れられるか、または貢献出来るかどうかの判断が修士論文（作品）として評価されます。

造形専門科目教育課程表

月	2021年4月			5月			6月			7月			8月			
日	5 10	12 17	19 24	26 1	3 8	10 15	17 22	24 29	31 5	7 12	14 19	21 26	28 3	5 10	12 17	7/19 8/21
期		1期			2期			3期								
授業週	入学式 4/5	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
学事予定	オリエンテーション週間 4/5	前期授業開始 4/12								6/12 13	オープンキャンパス			前期補講 前期定期試験週間 7/12 17		夏季休業 7/19 9/4
1年	<p>第1TERM 【方法論の理解とトライアル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●研究目的の探究 ●テーマ設定のスタディ ●情報収集と分類・分析-I ●コンセプトメイキング ●主旨内容構築 ●情報収集と分類・分析-II 															
2年	<p>第3TERM 【造形及びデザインングのトライアル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●第1TERM、第2TERMの成果物の再確認と軌道修正 ●造形、デザインングの展開とプロセス ●モデル試作—IIによる検証 ●制作開始 															

●オリエンテーション週間 4/5~4/10

8月	9月		10月			11月			12月			2022年1月~3月							
23 28	30 4	6 11	13 18	20 25	27 2	4 9	11 16	18 23	25 30	1 6	8 13	15 20	22 27	29 4	6 11	13 18	20 25	12/27 1/8	1/10 3/31
			4期			5期				6期		7期							
15	16	17	18	19	20	21	22	23		24	25	26	27	28	29	30			
		後期授業開始 9/6							芸術祭活動						後期授業終了 12/18	後期定期試験週間 12/20 25	後期補講	冬季休業	卒業制作論文(提出採点)
<p>第2TERM 【研究の理論的アプローチと図式のトライアル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●第1TERMのまとめと確認 ●中間プレゼンテーション ●完成形のイメージの構築 ●モデル試作—IIによる検証 ●講評 																			
<p>第4TERM 【造形及びデザインングのまとめ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●制作継続 ●第3TERMの最終まとめ ●表現方法の検討 ●プレゼンテーション方法の検討と作成 ●講評 																			

●祭典 10/29~10/31

●卒制展 1/13~1/16

デザイン専攻 空間演出デザインコース

理念・教育目標

空間演出デザインコースは、舞台美術全般、インテリアデザイン、環境デザイン、ファッションデザインに基点を置きながら、固有の研究テーマを掲げ、人間を取り巻くあらゆる空間的な関わりの中で、文化的な役割を背景とした豊かな想像力と共に、より高度な造形創造を手にするスペシャリストの育成を目的とする。

アドミッション・ポリシー

発展すべき明快かつ高度な研究テーマを持ち、自己の社会的確立を目指しながら、領域にとらわれない自由な発想を持ち得る個性豊かな人材であることを求める。

カリキュラム・ポリシー

2年間の研究計画の間、指名制による教員とのプログラム作成をもとに、随時必要に応じた多彩な専門分野からの教員による複合的な指導も可能であり、方法論だけではなく高度な技術的指導もプロセスに加えながら、領域間を自在に往来出来る体勢での指導を行う。

ディプロマ・ポリシー

本学科の特徴を生かした複合的な観点から、研究成果として修了制作の発表を全教員のもとで行い、隣接する各領域からの多角的な批評に加え、優れた表現を前提とした独自性、可能性などを問い、それらを総合的に評価する。

デザイン専攻 空間演出デザインコース

造形専門科目教育課程表

修士課程

博士後期課程

月	2021年4月			5月			6月			7月			8月			
日	5 10	12 17	19 24	26 1	3 8	10 15	17 22	24 29	31 5	7 12	14 19	21 26	28 3	5 10	12 17	7/19 8/21
期		1期			2期			3期								
授業週	入学式 4/5 オリエンテーション週間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
学事予定		前期授業開始 4/12								6/12 13 オープンキャンパス				前期授業終了 7/10 前期補講 前期定期試験週間 7/12 17		夏季休業 7/19 9/4
		教育実習														
1年		空間演出デザイン演習 I ○専任														
		空間演出デザイン特論 I(月2) ○専任														
2年		空間演出デザイン演習 II ○専任														
		空間演出デザイン特論 II(月3) ○専任														

• オリエンテーション週間 4/5~4/10

8月	9月			10月			11月			12月			2022年1月~3月						
23 28	30 4	6 11	13 18	20 25	27 2	4 9	11 16	18 23	25 30	1 6	8 13	15 20	22 27	29 4	6 11	13 18	20 25	12/27 1/8	1/10 3/31
	4期			5期				6期			7期								
15	16	17	18	19	20	21	22	23		24	25	26	27	28	29	30			
		後期授業開始 9/6							芸術祭活動						後期授業終了 12/18	後期定期試験週間 12/20 25	後期補講	冬季休業	卒業制作論文(提出採点)
	空間演出デザイン演習 I ○専任																		
	空間演出デザイン特論 I(月2) ○専任																		
	空間演出デザイン演習 II			修了制作															
	○専任			○専任															
	空間演出デザイン特論 II(月3) ○専任																		

• 祭典 10/29~10/31

• 卒制展 1/13~1/16

デザイン専攻 建築コース

理念・教育目標

建築コースは「価値ある空間の創出」を基本理念とし、室内から都市全体、ひいては地球環境に至る人間の活動を支える空間に関して、今日的あるいは普遍的な社会的課題を自ら発見し、実践的に取り組む人材を育成します。

専門的知識を備えながら、自然科学、人文科学、社会科学、芸術学にまたがる幅広く複眼的な視点で物事を捉え総合化していく力を持ち、豊かな感性と高い倫理性を備える人材の育成を目標とします。

アドミッション・ポリシー

- 建築、および環境デザインの領域において幅広い教養と知識を身につけながら、自身の研究テーマについて意識を強く持ち、継続的かつ段階的に展開する能力の高い人。
- 今日の社会的課題を自身の問題としてとらえ、実践的に関わろうとする意欲の高い人。
- 建築、および環境デザインの領域における高度な専門知識・技術習得に意欲の高い人。

カリキュラム・ポリシー

建築コースの研究過程は、自身の研究テーマを着実に段階的に展開・深化させるため、スタジオ制教育（少人数での特論・演習・実習）が中心となります。指導教員によって、分野およびテーマ展開の方向性が異なります。

1年次における客員教授による設計演習は、コース全体で実施される科目で、現代の生活環境を反映した課題が出され、構想から詳細なデザインまで一貫した視点を提示することが求められます。

大学院で開講している科目の単位取得数により、建築士試験の大学院における実務経験年数1年または2年が認定されます。

ディプロマ・ポリシー

理念・教育目標のもと編成されたカリキュラムの修了単位数を満たし、修了制作・研究のテーマと最終成果が批評に耐えうる内容を持っているかを、以下の視点で指導担当教員全員が評価します。

- 制作・研究のテーマがもつ意義
- テーマを展開する際の創造性・独自性
- 制作・研究の完成度

デザイン専攻 建築コース

専門教育科目教育課程表

月	2021年4月			5月			6月			7月			8月				
日	5 10	12 17	19 24	26 1	3 8	10 15	17 22	24 29	31 5	7 12	14 19	21 26	28 3	5 10	12 17	7/19 8/21	
期		1期			2期			3期									
授業週	入学式 4/5	オリエンテーション週間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	夏季休業 7/19~9/4
学事予定		前期授業開始 4/12									6/12 13 オープンキャンパス				前期授業終了 7/10	前期補講・ 前期定期試験週間 7/12~17	
										教育実習							
1年	建築デザイン特論 Ia 建築設計演習 I 建築デザイン演習 I 建築設計実習 I・II・III														建築設計 インターンシップ I		
2年	建築デザイン特論 IIa 建築設計演習 II 建築デザイン演習 II 建築設計実習 I・II・III														建築設計 インターンシップ III		

• オリエンテーション週間 4/5~4/10

8月	9月		10月			11月			12月			2022年1月~3月							
23 28	30 4	6 11	13 18	20 25	27 2	4 9	11 16	18 23	25 30	1 6	8 13	15 20	22 27	29 4	6 11	13 18	20 25	12/27 1/8	1/10 3/31
		4期			5期				6期		7期								
15	16	17	18	19	20	21	22	23		24	25	26	27	28	29	30			
		後期授業開始 9/6							芸術祭活動						後期授業終了 12/18	後期定期試験週間 12/20~25	後期補講・	冬季休業	卒業制作論文(提出採点)
建築デザイン特論 Ib 建築設計演習 I 建築デザイン演習 I 建築設計実習 I・II・III 建築デザイン特論 IIb 建築設計演習 III 建築デザイン演習 III 建築設計実習 I・II・III														建築設計 インターンシップ II					

• 祭典 10/29~10/31

• 卒制展 1/13~1/16

大学院における建築士試験の実務経験について

建築士法改正に伴い平成21年度入学の大学院入学者から大学院における建築士免許登録資格の実務経験要件が変わりました。大学院で建築士試験の実務経験を取得する場合は、下記の科目構成を理解し、担当教員と相談の上、計画的に履修すること。

■ 科目構成（建築士試験における実務経験に係る科目）

1. インターンシップ

① 学内インターンシップ

建築設計実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（高橋スタジオ、布施スタジオ、小西スタジオ、菊地スタジオ、持田スタジオ）

② 学外インターンシップ

建築設計インターンシップⅠ・Ⅱ・Ⅲ

2. インターンシップ関連科目

① 演習・実験・実習（8単位以内）

建築設計演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（高橋スタジオ、布施スタジオ、小西スタジオ、菊地スタジオ、持田スタジオ）

② 講義科目（8単位以内）

建築設計特論、建築構法特論、建築設備特論、建築計画特論

■ 実務経験年数と必要単位数

1. 実務経験年数を1年とする場合

① 建築士試験における実務経験に対応した指定科目を15単位以上取得すること

② インターンシップの単位を4単位以上取得すること

2. 実務経験年数を2年とする場合

① 建築士試験における実務経験に対応した指定科目を30単位以上取得すること

② インターンシップの単位を14単位以上取得すること

理念・教育目標

基礎デザイン学コースでは、デザインの各専門領域、広く造形に通底する問題、あるいはデザイン論、デザイン史、さらに形態や色彩についての諸説やその歴史を、今日の情報・通信をはじめとする技術革新や産業・生活構造に位置づけながら、社会的・人間的・文明的な文脈において研究します。現在顕在化してきている情報やメディアのためのデザイン、社会のためのデザイン、グランドデザインの領域においても上記の視点からさまざまな問題が発見され、新たな研究領域が拓かれつつあります。また、それらの問題に対する理解や解決、批判あるいはデザインの提案に対しては、問題を総合的に捉える思考と方法論が求められています。基礎デザイン学は、社会的・人間的・文明的な文脈の中にデザインの研究・応用領域を拓いていく創造的な研究領域であるといえます。

アドミッション・ポリシー

教育目標に基づいて、デザインの理解を社会的・人間的・文明的な文脈に広く求め、逆にそれらの文脈の中にデザインの研究・応用領域を拓いていくことができる人材、また日常生活の中にそれを展開しうる人材、デザインばかりでなく、研究の視点によりそれらに貢献しうる人材を求めます。

カリキュラム・ポリシー

2年間を通して、デザイン論特論を必修としています。その特徴は、デザインと美術に通底する造形の問題を歴史的な視点から批判的に検討すること、哲学と科学の方法論を記号論を中心として学ぶことにより総合的な視点を獲得することです。

デザイン理論演習では、専任教員により、以下のような専門的な指導を行います。

- コミュニケーション・デザインの手法
- デザインと科学を架橋する視点からの造形
- 生活におけるデザインの源泉としての「美」や「魅力」の実証的な研究とデザイン
- 表現の生成や構造に関する研究
- 造形（形態と色彩）の水脈を探る思想と理論
- インタラクションに基づくデザイン

ディプロマ・ポリシー

修士制作・論文に、2年間の研究成果が反映されていることが求められます。デザインの問題が発見され、それに対して総合的な視点からの検討がなされ、デザインあるいは研究の成果が知識資源として社会に貢献することを意図していることが求められます。

デザイン専攻 基礎デザイン学コース

時間割

		1	2	3	4	5
月	前					デザイン理論演習 Ib・Ib [原]
	後		デザイン論特論I [原・畑]			デザイン理論演習 Ig・Ilg [清水]
火	前		デザイン論特論I [板東]	デザイン理論演習Ia [板東] デザイン理論演習IIa [板東]	通年 デザイン理論演習 Ie [小林] デザイン理論演習 Iie [小林]	通年 / 5 限 デザイン理論演習 Ic・Iic [柴田]
	後					交換留学生 ゼミ [小林]
水	前					
	後			デザイン理論演習Ia [板東]	デザイン理論演習IIa [板東]	
木	前	通年 / 1・2 限 デザイン理論演習 Id [菱川] デザイン理論演習 II d [菱川]				
	後	デザイン理論演習 If [田中] デザイン理論演習 Iif [田中]		通年 / 2 限 交換留学生ゼミ [板東]		
金	前				デザイン論特論II [平尾]	
	後					
土	前					
	後					

凡例 授業名 [担当教員]

<p>理念・教育目標</p>	<p>デザイン情報学コースは、多様なデザイン行為やメディア表現を情報学の視座から研究し、生活や社会環境に対する新たな捉え方を提示することを教育理念とします。また、本コースは、研究アプローチによって最適な研究成果を求め、論文執筆もしくは作品制作、またはその複合的な成果も受容し、デザインとその周辺世界を開拓する理論構築とその実践を教育目標とします。</p>
<p>アドミッション・ポリシー</p>	<p>先端的な科学技術文明と生活をつなぐ「汎技術としてのデザイン知」を実社会に活かすために、「様々なメディアに対応する表現方法」「コミュニケーションを軸とした創発的思考」「デザイン・アートにおけるデジタル技術」に関心を持ち意欲的に取り組む素質と目的意識を有する学生を求めています。</p>
<p>カリキュラム・ポリシー</p>	<p>「様々なメディアに対応する表現方法」「コミュニケーションを軸とした創発的思考」「デザイン・アートにおけるデジタル技術」を基盤とし、自ら研究・制作領域を開拓していくためのカリキュラムで構成しています。</p> <p>デザイン情報学統合演習では、自己の研究分野に合わせ、各専任教員の研究領域を選択し指導を受けます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デザインジャーナリズムに基づくメディア編集術、近現代日本造形論 ・創発的なコミュニケーションのデザインとデジタルメディア文化 ・コンピュータ関連分野。オペレーティングシステム、ネットワーク関連。 ・Webを基盤とする写真表現（Photography as web-based art）の実践的な研究 ・センサーを用いたユーザインタフェースの研究開発、およびそのデジタルコンテンツデザイン ・手続型コンピュータグラフィックスによる造形表現
<p>ディプロマ・ポリシー</p>	<p>デザイン情報学コースにおける修士論文・制作は、以下の点について総合的な観点から評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の研究・制作領域について理論的かつ実践的に考究しているか 2. 論文執筆もしくは作品制作、またはその複合的な成果として具体的に体现しているか 3. 学外での発表活動を行なっているか

デザイン専攻 デザイン情報学コース

時間割

修士課程

博士後期課程

期	1 期	2 期	3 期	4 期	5 期	6 期	7 期
1 年	デザイン情報学特論 IA			デザイン情報学特論 IB			
	デザイン情報学統合演習 I						
2 年	デザイン情報学特論 IIA			デザイン情報学特論 IIB			
	デザイン情報学統合演習 II						

構成（研究領域）

造形芸術専攻からなる博士後期課程の教育課程は、修士課程までの教育課程を基礎としながらも、修士課程の美術専攻とデザイン専攻を統合的に再編し、専門の深化にも対応するものです。

造形芸術専攻は、作品制作、環境形成、および美術理論という相互に横断的な三つの研究領域を設定しています。これらの研究領域は、学生がいずれかの領域に属しながらも他の領域からの知識や刺激が絶えず得られるように、有機的に結びついています。

自らの専門を深めようとするとき、それが属する研究領域において制作や研究を深めていくのは勿論ですが、隣接する研究領域の制作や研究の成果はそのための教養の前提として作用する以上の役割を果たします。関連領域の研究成果や識見によって、隣接する領域と個々の制作・研究活動の差異性や独自性が、また隣接領域との関係により、それらと通底する本質的な課題が自覚されるからです。

三つの研究領域は、自律性をもちながら、それぞれが他の専門を極めるために役立つ領域と考えることができます。

(1) 作品制作研究領域

自然の中の一存在である人間は生の普遍的な本質を探り表す手段として、さまざまな表現活動を行ってきました。物を創ること、自己のイメージを顕在化することは人間の本質的要求であり、作品は制作者自身の生の実感や強い欲求から生まれてきたといえます。ここでは、これらの表現への意欲や欲求をあらためて問い直すことで人間存在に関わる新たな世界観の創出を目指します。

この研究領域では、作品の制作を通して、美術表現における認識、価値観、表現方法、素材、技術、歴史など様々な問題を探究し普遍的で新たな表現の可能性を探ります。

制作手段としては、平面表現—絵画（日本画、油絵、版画等）立体表現（彫刻、立体造形）空間造形表現を深めるばかりでなく、他の研究領域との協同作業も視野に入れたプロジェクト計画、映像表現、インスタレーションなどの造形芸術分野、さらに多様なメディア表現を加えこれらの横断的で複合的な新たな表現領域の可能性も探ります。

(2) 環境形成研究領域

現代社会における、ひと、もの、情報、それらからなる環境を対象としてその相互のよりよい関係を目指し、優れた技術と知見によって、環境形成を目指す研究領域です。

コミュニケーションデザイン、プロダクトデザイン、クラフトデザイン、空間デザイン、建築、映像デザイン、情報デザイン、などの分野が含まれます。研究テーマとしては次のようなことが考えられます。さまざまな道具・空間・情報に関するデザイン研究、さらに、道具・空間・情報の生産と使用における物質と人間のかかわりや環境課題を対象とする研究、人間の認知をはじめとする行動などの評価と行動に関する研究、環境形成作用と社会・経済構造の関係を見据えた環境設計システム（仕組み）のデザインと研究、これにはマネジメントや政策も含まれます。

(3) 美術理論研究領域

造形芸術領域（美術、建築、デザイン、工芸、メディア・アートなど）に関する歴史研究および理論研究を行います。造形芸術に関する歴史的、理論的研究は、現在、それぞれの対象領域が拡大しており、また隣接する諸科学との協働も必然的なものとなっています。ここではアクチュアルな制作実践や社会との影響関係にかかわる課題の研究も行います。したがって、歴史的、理論的研究を狭い領域の専門性へと囲い込むことなく、開いていくことによって、造形芸術の意味をあらためて問い直します。

さらに、専門的な知識として学びとったものを前提としながらも、繰り返し新しい視点からの分析や解釈を実践し、研究のあり方や理論の更新をし、新たな創造の可能性を探求する。造形芸術領域の学術研究者のほか、制作をはじめとする造形教育や批評、美術館などの活動に寄与する人材を対象とします。

学生は、入学すると「造形芸術特論」(2単位)を履修します。これは、博士後期課程における研究を遂行するために、造形芸術をめぐる多様な研究事例をもとに、研究課題の設定や先行研究の調査など研究計画について指導するものです。

さらに、1、2年次の間に「作品制作研究Ⅰ・Ⅱ」、「環境形成研究Ⅰ・Ⅱ」、「美術理論研究Ⅰ・Ⅱ」の中から各学年2単位、2年間で4単位を選択し履修します。この履修についてはコーディネータが助言や支援を行い、必要があれば、他の研究領域の教員からの指導や支援を受けることもできます。

2、3年次では「総合研究Ⅰ・Ⅱ」(各学年2単位、2年間で4単位)を履修することによって制作・研究活動についてアカデミックな視点から指導を受けます。また、「総合研究Ⅰ・Ⅱ」では、複数の教員により、博士論文の指導も受けることになります。以上、3年間に併せて10単位以上を修得します。

授業科目および単位数

造形研究科 博士後期課程 / 単位表
(造形芸術専攻)

学年	1		2		3	
科目区分	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位
必修	造形芸術特論	2	総合研究Ⅰ	2	総合研究Ⅱ	2
選択必修	作品制作研究Ⅰ	2	作品制作研究Ⅱ	2		
	環境形成研究Ⅰ	2	環境形成研究Ⅱ	2		
	美術理論研究Ⅰ	2	美術理論研究Ⅱ	2		

2021年4月1日発行
武蔵野美術大学 大学院造形研究科履修要項 2021

発行…………… 武蔵野美術大学
〒187-8505 東京都小平市小川町 1-736
電話 042-342-6044 (教務チーム)
印刷…………… 株式会社アトミ

武蔵野美術大学ホームページ
<https://www.musabi.ac.jp/>

関係諸規則については、こちらをご参照ください。
<https://www.musabi.ac.jp/outline/about/regulation/>